平成30年度　教育ふれあい懇談会

平成３１年１月１８日（金）
阿南市立津乃峰小学校

懇談会テーマ
「地域と連携した防災教育について」

津乃峰小学校が防災教育を進めていく中で、どのように地域や保護者が関わり、それにより地域や学校がどのように変容してきたのか。また、今後、防災教育を進めていく上での課題等について、意見交換を行いました。

県教育委員会出席者
美馬　持仁教育長
藤本　宗子委員
小林　信行委員
河口　雅子委員
菊池　健次委員

学校出席者
吉田　忠司　校長
西本　篤人　教頭
山本　　栄　教諭
日下　直毅　教諭

阿南市教育委員会出席者
多喜川　広伸　学校教育課長

地域・保護者出席者
勝瀬　良昭　学校評議員
浦田　　貞　学校評議員
山中名賀恵　学校評議員
高島　光彦　答島21世紀会初代会長
増田　英俊　答島21世紀会前会長
國方　識盟　PTA会長
森本　将史　PTA副会長

最初にご自身の活動や今後の防災教育のあり方等について、お話をいただきました。

主な発言内容

■５年間の防災教育の取組によって、学校も大きく変わってきた。いざというときに、自分の考えをしっかりと伝えられるよう、取組を積み上げていきたい。
■子供の意見や地域の意見を、避難訓練などの取組に反映するように努めている。
■防災を人権教育と位置づけ、町としても取り組んでいる。津乃峰小学校の子供たちが地域の防災リーダーとして活躍してくれることで、町民の意識も高まってきている。
■防災は地域の信頼がないと成立しない。学校の活動を通して、地域の人の信頼づくりが進んでいる。
■学校の活動を生かして、われわれ地域の者もしっかり学んでいく必要がある。
■続けることと、引き継ぐことが大切。地域にとって、津乃峰小学校は防災の拠点であるため、続けていくためにも、取組内容と実施方法について、検討と再構築を行う必要がある。
■学校が地域から信頼されるために、地域と連携した活動を行う中で、それを高めてもらいたい。
■子供たちがいっしょうけんめいに取り組んでいる姿を見れば、大人も取り組むようになり、意識も高まっていくのではないか。
■学校にいる間はしっかり逃げてくれるので安心している。いざというときに、しっかり逃げられる子供になってほしい。
■継続していくために、防災教育の核となる部分を残しながら、工夫ができるところは何かなど、しっかりと検討したい。
■自分の意見をしっかりと伝えられる子供を育てることが、取組の継続につながっていく。意見を言うためには知識が必要なので、それをしっかりと身に付けさせたい。

続いて、意見交換を行いました。主な内容は以下のとおりです。

■津乃峰小学校ですばらしい学びを経験した子供たちが中学校でも同じように取り組んでいるのか。

〇学校による取組の温度差はあるようである。それを解決していくのが今後の課題ではないか。

〇阿南市としても、取組をしっかりと広報して、広げていく仕掛けを作っていく。

■学校が大きく変わってきたのは、人権教育の視点で防災教育を進めてきた成果ではないか。取組をしっかり発信していただきたい。

■学校での充実した取組によって、子供たちの家庭での様子はどうか。

〇災害について、敏感にはなっている。

〇今年度から毎月一回「家庭防災通信『ブリッジ』」を発行し、家庭に対する情報提供を行い、家庭で防災について考えてもらう取組を行っている。

■子供たちは、地域の防災リーダーとして、自主防災会の訓練などでも活躍できるのではないか。

〇今も親といっしょに参加する子供も多い。炊き出しなど、てきぱきと訓練を行っている。

〇運動会にも防災に関する種目を入れており、町民の意識向上につながっているのではないか。

■美馬教育長からは、
　すでに取組の内容はものすごいレベルにまで来ている。今後は、まわりにどのように良い影響を与えていくかが課題ではないか。小学校ですばらしいことを学んだ子供たちが、中学校・高校と上がっていくなかで、どのように取り組んでいくか、また、それを教員がどのようにサポートしていくか、その仕組みづくりを行っていく必要がある。